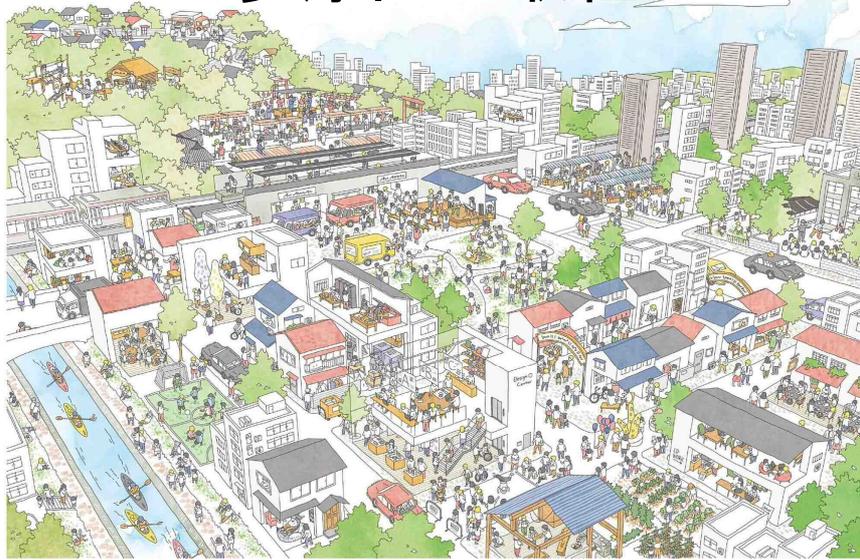


「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」と 多摩区の取組



川崎市多摩区役所企画課

1 基本的考え方の検討の経緯

◇川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会(平成28年度)から、参加と協働による地域課題の解決の「新たなしくみ」が必要であるとの提言。

◇これを受け、「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針を公表(平成29年8月)。

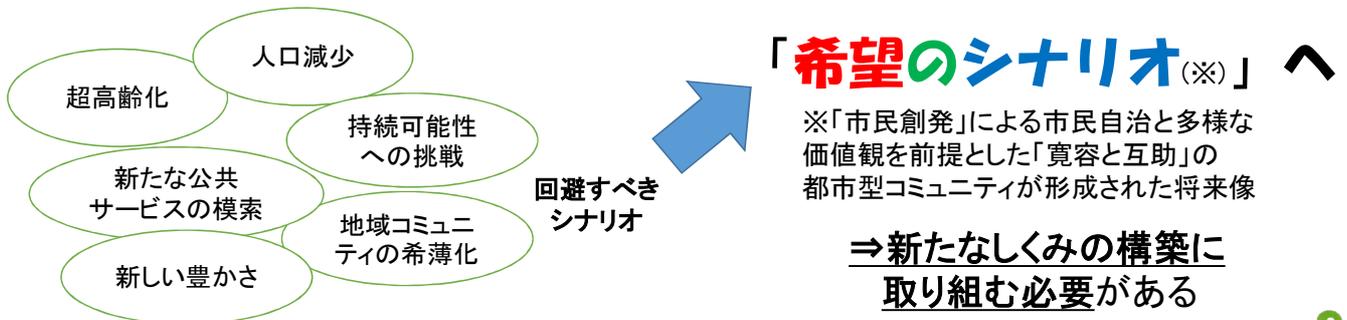
◇その後、この方針に沿い市民や区民会議委員、町内会等へのアンケート、区民会議意見交換会、まちづくり推進組織関係者によるワークショップを実施。

◇平成30年度は、「川崎市コミュニティ施策検討有識者会議」において、「市民創発」や「多様な市民や組織の連携による地域コミュニティ形成」などを含めた素案の作成、各区で開催した市民検討ワークショップを開催するとともに、パブリックコメント手続きも実施。

⇒ **平成31年3月策定**

2 基本的考え方の概要

◇考え方の目的や策定の背景、本市のコミュニティの現状と課題、基本理念と今後の方向性に触れつつ、「新たなしくみ」の構築に向けた今後の取組などについて触れた上で、三層制による取組の推進を明記。



市民創発とは・・・

様々な個人や団体が出会い、それぞれの思いを共有・共感することで生まれる相互作用により、これまでにない活動や予期せぬ価値を創出すること。

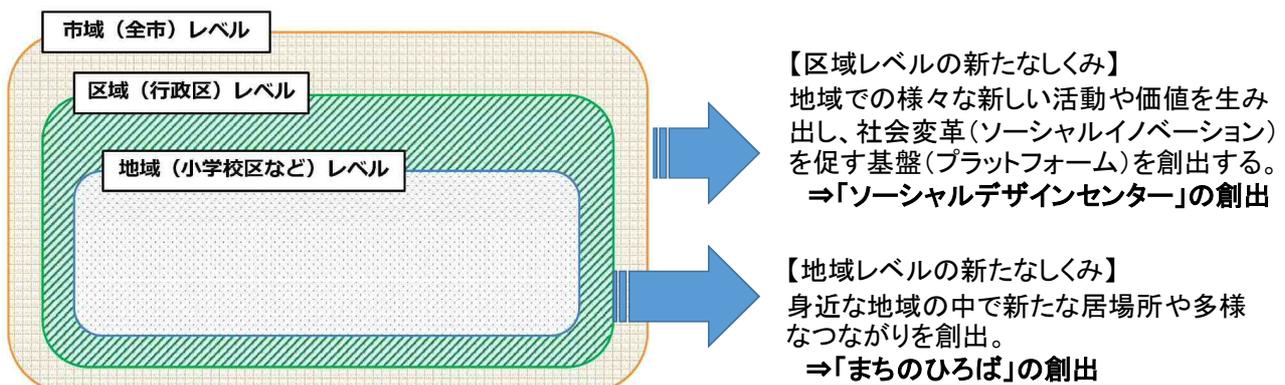


2 基本的考え方の概要

【今後の方向性】

- ◇多様な市民や組織の連携によるコミュニティ形成や豊かな市民社会の形成
- ◇超高齢化社会に対応する地域コミュニティとその後を見据えた取組の展開
- ◇川崎の地域固有の資源の発掘と再評価、活用策の推進

【新たなしくみの構築に向けた今後の取組】 ⇒三層制による取組の推進



【区域レベルの新たなしくみ】

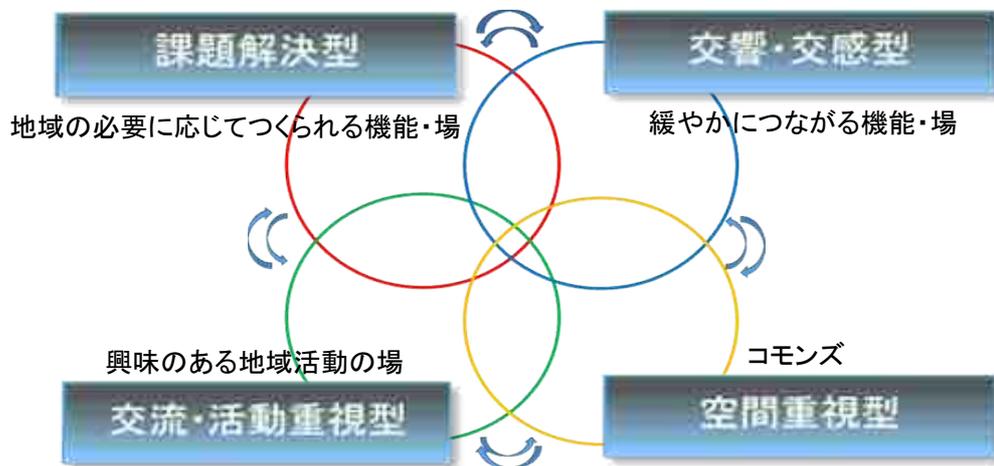
地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革（ソーシャルイノベーション）を促す基盤（プラットフォーム）を創出する。
⇒「ソーシャルデザインセンター」の創出

【地域レベルの新たなしくみ】

身近な地域の中で新たな居場所や多様なつながりを創出。
⇒「まちのひろば」の創出

3 まちのひろば？

- ・参加のきっかけとなる地域の居場所
- ・地域の課題解決の場 など
- ・誰もが気軽に集える出会いの場



3 まちのひろば？

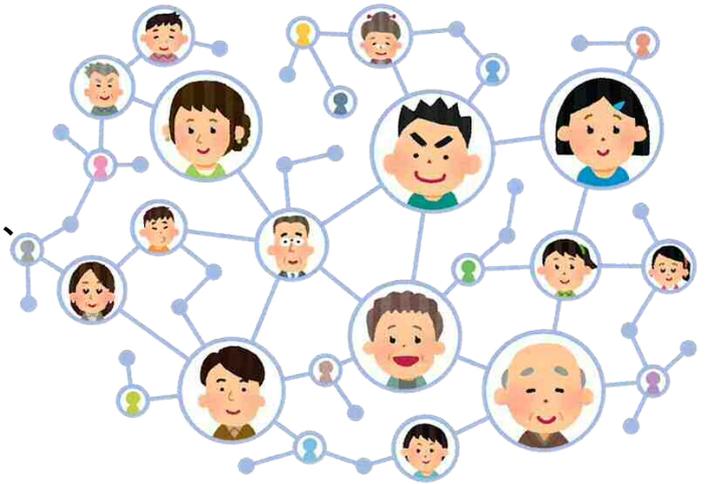
- ・既存公共施設の地域化
- ・民間の地域資源やオープンスペースの活用
- ・SNS上 など



3 まちのひろば？

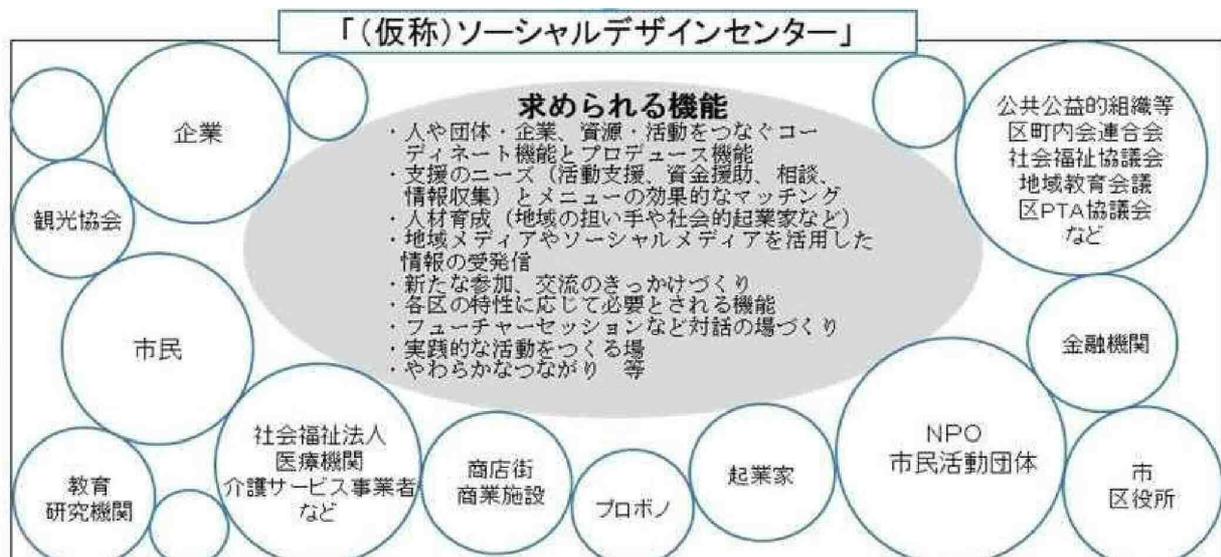
「まちのひろば」への行政の関わり方

- ◇既存公共施設の地域化
- ◇民間地域資源の活用についての検討
- ◇「まちのひろば」の自主性や自律性を尊重した支援(立ち上げ支援、広報支援、ネットワーク支援)など



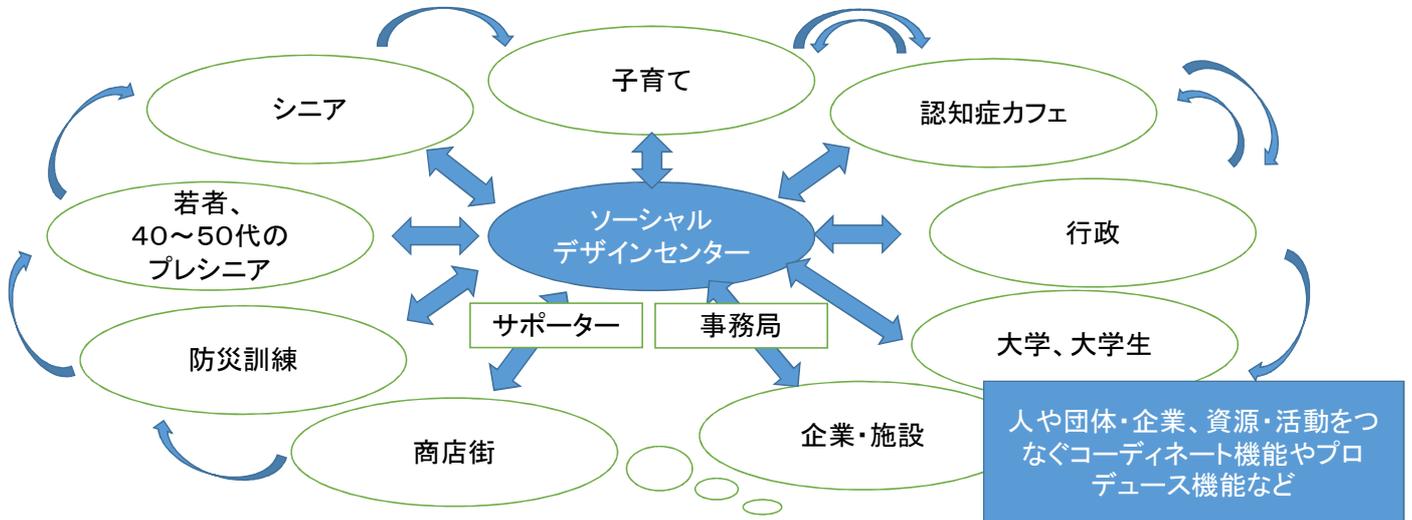
4 ソーシャルデザインセンター？

地域での新しい活動や価値を生み出し、社会変革
(ソーシャルイノベーション)を促す基盤(プラットフォーム)



4 ソーシャルデザインセンター？

※下図は1つのイメージ



4 ソーシャルデザインセンター？

「ソーシャルデザインセンター」への行政の関わり方 ~モデル創出へ~

●「ソーシャルデザインセンター」の立ち上げ

× 行政事務局の設置
× 官製NPOの設立

○ 既存事業の整理による財政面での支援

●「ソーシャルデザインセンター」の将来像

◇ 市民主体の運営 ◇ 自主財源による運営

連携は密にしながらも、
市民の自主性・自律性を
尊重しながら支援

5 多摩区での検討状況

◇平成30年12月9日 市民シンポジウム



参加者:91名(うち、多摩区10名)会場:エポックなかはら7階大会議室

内容 ・市長スピーチ「なぜ、いまコミュニティなのか」
・「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」(素案)の説明 ・意見交換

主な意見(多摩区での意見交換より)

- ・基本的考え方の構想は素晴らしい ・市の他部署で同じ認識を持っているのか
- ・若い人は平日参加できず、こうした議論にも参加していないのではないか
- ・基本的考え方は具体性がなく何を評価したらよいか分からない
- ・ソーシャルデザインセンターの出先(サブのセンター)が各小学校区にあるのがよい
- ・地域包括ケアの活動もきめ細かく把握できる体制が必要
- ・向ヶ丘遊園跡地を有効活用してもらいたい ・行政と区民とのキャッチボールを続けてほしい

5 多摩区での検討状況

◇平成31年2月16日 ワークショップ

参加者:20名 会場:PAZ COFFEE SHOP

内容 ・「まちのひろば」の情報を共有しよう
※参加者自身が把握している「まちのひろば」の情報を共有
・「ソーシャルデザインセンター」のイメージを考えよう
※「準備段階」、「オープニングデー」、「活動の日々」、「3年後」の4場面におけるイメージの意見・アイデア出し



5 多摩区での検討状況

◇「まちのひろば」の情報を共有しよう

(平成31年2月16日ワークショップより)



各グループ共通で出された情報

- ・生田緑地 ・多摩川 ・多摩区役所(ロビー、7階等) ・子ども文化センター ・図書館 ・市民館 ・町内会・自治会館
- ・団地(集会所等) ・専修大学(会議室、サテライトキャンパス等) ・学校、幼稚園、保育園
- ・タマックの家(ショールーム等) ・PAZ COFFEE SHOP ・神社、仏閣 ・老人福祉センター
- ・みた・まちもりカフェ(地域カフェ、認知症カフェ等) ・コミュニティスペース(遊友ひろば、長沢ひろば、たまりばなど)など

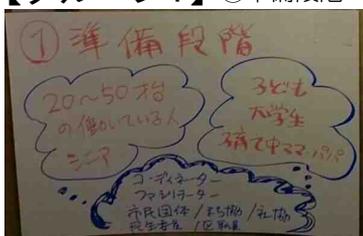
その他の出された情報

- ・MASA2SET ・テクモピア(ゲームセンター、VRゲーム) ・カルペディエム ・カラオケ店待合ロビー
- ・多摩スポーツセンター ・日向山 ・中野島MUKU ・中野島のえん堤 ・新多摩川ハイムの広場
- ・公園体操 ・喫茶店 ・ドラッグストア ・不動産屋 ・いなげや(スーパー) など

5 多摩区での検討状況

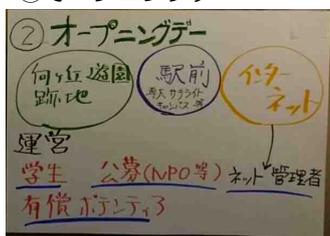
◇「ソーシャルデザインセンター」のイメージを考えよう (平成31年2月16日WSより)

【グループ1】①準備段階



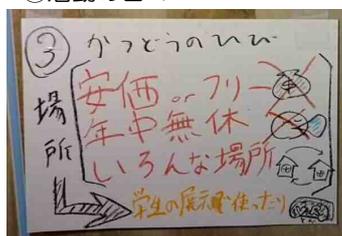
・多世代、特に大学生、20代から50代の働いている世代の方が参加しやすい仕組みで検討したい。

②オープニングデー



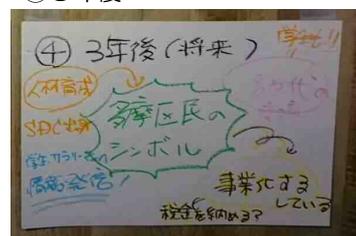
・場所は、向ヶ丘遊園跡地(注目を浴びる施設ができる)、専修大学サテライトキャンパス(駅前でもよい)、インターネットでの参加もできるように。
 ・運営はエネルギーのある学生さんなどを公募で。
 ・インターネットの管理者として専門家も必要。

③活動の日々



・場所は安価又はフリーで、年中無休。いろんな場所。
 ・学生たちの活動発表の場などとして活用されている。

④3年後

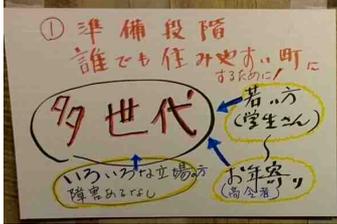


・多摩区民のシンボル、夢になっている。
 ・多世代の交流の場。
 ・ソーシャルデザインセンター出身の人材が育っている。学生、サラリーマンの情報発信の場になっていて、何かが事業化されているかも。

5 多摩区での検討状況

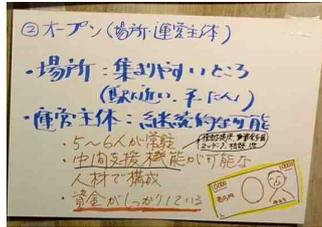
◇「ソーシャルデザインセンター」のイメージを考えよう (平成31年2月16日WSより)

【グループ2】①準備段階



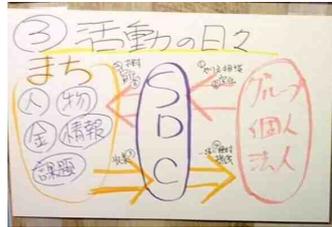
- ・住みやすい町のために、若い学生からシニアまで、業者の方、障がいのあるなしに関わらず意見交換をしたい。

②オープニングデー



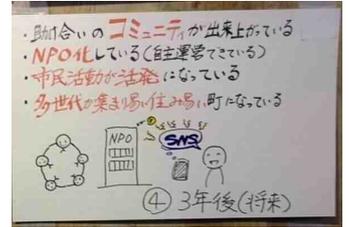
- ・集まりやすい所、駅に近いところ、平坦なところ。
- ・みんながフラッと立ち寄れる場所があると良い。
- ・資金をしっかりしていることが重要。
- ・中間支援などをできる方に構成員としていて欲しい。

③活動の日々



- ・やりたいことがある人が実現に向けた相談をSDCに持ち込む。
- ・相談を受けたSDCは人、場所、情報などを町の中から収集してきて提供する。
- ・取組が実現する際は、SDCで宣伝を行う。
- ・この活動を循環して、日々の活動がやりやすくなる。

④3年後

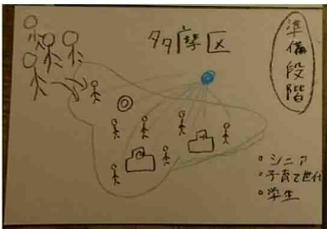


- ・助け合いのコミュニティが出来上がり、NPO法人として自主運営が出来ている。
- ・市民活動が活発。
- ・スモールスタートで始まった小さな取組を積み上げて、大きなものにしていき、最終的には多世代が集まって住みやすい町になっている。

5 多摩区での検討状況

◇「ソーシャルデザインセンター」のイメージを考えよう (平成31年2月16日WSより)

【グループ3】①準備段階



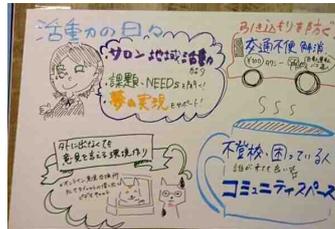
- ・シニア、子育て世代、若者など様々な方の参加、病院や役所などの意見も欲しい。
- ・身体が不自由で、あまり外に出られない人の意見も聞くため、ネットなどの活用も。
- ・区外から来られた方の意見も聞きたい。

②オープニングデー



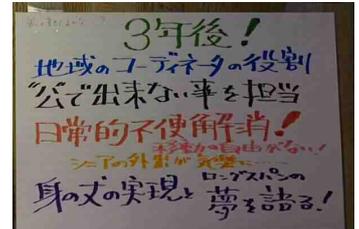
- ・オープニングデーは、一日でやるのではなく「ずるずるだったら」オープニングマンスなどで、長く行う。
- ・場所は誰でも行ける多摩川。
- ・内容は世代別もあり、時には一緒にやるものも。
- ・一発大きいので終わりではなく、小規模で毎日やる。
- ・やる人が自主的に、行政が中心ではなく、市民が中心になってやる。

③活動の日々



- ・サロンやまちの広場などの紹介、市民が困っている課題やニーズの把握、夢の実現をサポートしたい。
- ・引きこもり、交通不便解消のため、100円タクシーや自動運転バスの導入。
- ・外に出れない人のために、タブレット等の貸出、オンラインで意見交換できる場を提供。
- ・誰が来ても楽しめるコミュニティスペースの実現。

④3年後



- ・地域のコーディネータの役割を担当。
- ・公で実現できないことを担うポジションになっている。
- ・日常的な交通不便の解消の実現。
- ・身の丈のことはばかりでなく、大きな夢の実現も目指したい。

5 多摩区での検討状況

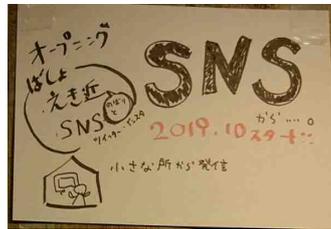
◇「ソーシャルデザインセンター」のイメージを考えよう（平成31年2月16日WSより）

【グループ4】①準備段階



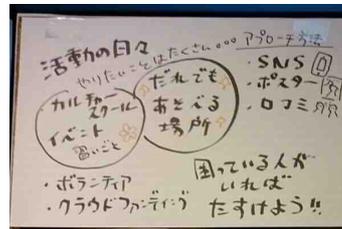
・とにかくやりたい人(NPO、子育て世代、大人、お店の人など)が集まり主体となる。

②オープニングデー



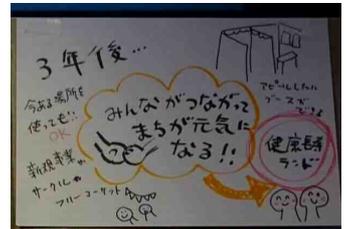
・今年の10月にスタート。
・多摩区民祭を大々的に使ってアピール。
・すぐできることはSNSで拡散。

③活動の日々



・やりたいことはたくさんある。
・カルチャースクール、イベント、習い事。
・誰でも遊べる場所、既存の施設など、開いている施設などを使って、こんなことやりたいという人たちが集まってやる。
・SNS、ポスター、口コミなどで周知。

④3年後



・ソーシャルデザインとは、社会的な課題を、社会的なつながりと資源を使って、課題解決していこうという理念。
・夢を形に、育てやすい、健康長寿を全うできる多摩区を実現していきたい。
・ワクワク感の中で、ボランティアの参加と、区内のつながりを生み出し、夢の実現を目指したい。

6 今後の進め方

次の視点をもとに具体的取組を展開

◇参加と現場主義に基づく検討と協働による施策推進

◇横断的な庁内推進体制の整備と効果的な事業展開

◇スピード感を重視した展開

◇モデル・プロジェクトによる効果的な事業推進

◇スモールスタートによる事業の実体化と見直し時期の設定

6 今後の進め方

◇多摩区では・・・

【今後の検討の進め方イメージ】

